

平成30年度（2018年度） 社会福祉法人鈴鹿福祉会事業報告



はじめに

当ホームは平成 5 年に開設し、皆様に支え続けられ、26 周年を迎えることができました。こうして無事に迎えることができましたことは、地域の皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

平成 12 年 4 月にスタートした介護保険制度から 18 年余りが経過しました。

その間、未来を見据えた特別養護老人ホーム、ショートステイの個室ユニット化、一昨年度からは、トレーニングマシンやレッドコート®などを用い、予防にも重視したデイサービスセンターの増築、ICT（情報通信技術）やロボット、機器などのテクノロジーを用いた未来型の KAIGO（介護）等に取り組み、地域の皆様に質の高い介護サービスをお届けしようと、スタッフ一同努力を重ねてまいりました。

雇用については、高年齢の方や障がいをお持ちの方等、就労が困難な方にも介護やその周辺業務をお手伝いいただき、地域における社会福祉法人のあるべき姿にまた一歩近づくことができました。

昨年 10 月には、三重県知事より「みえ働きやすい介護職場取組宣言事業所」である証明を受けました。取り組みを評価していただいたことは、今までの努力が報われた思いであります。

本年 5 月 1 日、30 年余に亘りともに歩んできた「平成」から「令和」へと改元が行われました。

元号が変わり、未来に向けてスタートを切りたいと思っておりますが、65 歳以上割合・75 歳以上割合が市の平均に比して著しく高い、鈴鹿市西部地域には特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）は、当鈴鹿グリーンホーム 50 床しか整備されておられません。

そのため、ショートステイなどを含めた滞在型サービスに対するニーズが連動するように高まってきており、地域の中で介護や支援が必要な高齢者並びに日々介護をされているご家族の在宅生活の継続が限界のところまできていることに強い危機感を抱いております。

この点につきましては、早急に地域の皆様のニーズに 대응していく必要があると考え、過去より行政等に対して声をあげているところでございます。

私たちは、これまで地域の皆様とともに歩み、築き上げてきたものがたくさんありますが、決して立ち止まらずに日々チャレンジし、経営理念である”信頼されるべき存在であり続ける”ことができるよう、スタッフ一同、さらに一層の努力を重ねてまいることをお約束して、平成 30 年度の事業についてご報告をいたします。

令和元年 6 月 14 日

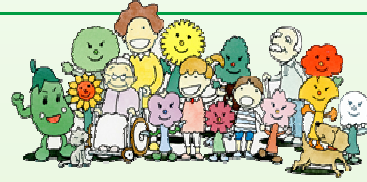
社会福祉法人 鈴鹿福祉会
理 事 長 中 村 敏

1. 事業基本理念に基づく社会福祉事業・公益事業の経営



経営理念

私たちは、地域に信頼されるべき
存在であり続けます



行動指針 「気持ちをかたちに」

～こころづかいを地域のみなさまに～ ～思いやりを地域のみなさまに～



行動方針 「スタッフひとりひとりが「新たな目標」に向かい、チャレンジしていきます。」



採用指針 わたしたちと一緒に“鈴鹿グリーンホーム”をいっしょに育ってくれる人



育成方針 「まなぶ風土」の醸成と「互いに努力を認め合える文化」の構築により、「働きがいのある魅力的な職場」の形成と「豊かな人材」の育成を図ります



中期経営計画 2018.4-2021.3 ビジョン

『KAIGO(介護)の質の“見える化”を目指して』

～社会福祉法人・介護サービス事業者として、高い公共性・公益性・透明性をもって活動する～

◎「リアルタイムでの情報のお届けと情報の公開」

- ・根拠に基づいたケアとサービス
- ・自宅での暮らしの維持・継続を目指したケア・サービス
 - タブレット、スマートフォン等の情報通信機器(ICT)、介護ロボット、介護機器、既存の介護保険サービス、ホームページ、各種ネットワーク等の利活用
 - デジタル、アナログの双方によるケア、データの評価、分析、共有、お届け、公開

◎「5つの事業戦略」

- ①ユニットケア、重度者、認知症の方、看取り、医療ニーズ・単身や高齢者世帯等に対する支援の充実
- ②機能訓練・介護予防の充実、地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組み
- ③地域共生社会の実現に向けた障がい者等の配慮が必要な方への支援体制の構築
- ④恒久的な人材確保・育成体制の構築（教育・働き方改革・生産性向上・業務効率化等）
- ⑤地域ニーズ（課題）・ウォンツ（要望）に応じた効果的な資本投下

2. 法人及び平成 30 年度事業計画の概要

法人設立	平成 4 年 4 月 9 日
住所	鈴鹿市深溝町字北林 2956 番地
電話	059-374-4600
FAX	059-374-4543
E-mail	suzugu@mecha.ne.jp
URL	https://suzuka-greenhome.jp 法人・各事業所の取り組みなどを日々掲載しています。 ぜひ、ご覧ください。
平成 30 年度 事業計画目標	～ “見える化” チャレンジ 2018 ～
※各取り組みを行 う事業所を次 のとおり色分 けをして示し ています。 ●特別養護老人ホ ーム ●ショートステイ ●デイサービス ●ケアマネジャー ●在宅介護支援	➤<u>未来型の KAIGO にチャレンジ！</u> ●●●●●・地域のみなさまの期待を超える KAIGO サービスを提供するためのチャレンジ ●●●●●・KAIGO、福祉施設の未来型ビジネススタイルをデザインするためのチャレンジ ●●●●●・健康寿命の延伸を目指し、健康を支え守るためのチャレンジ ●●●●●・生きがいと社会活動、参加を推進するためのチャレンジ ●●●●●・介護予防、機能訓練を推進するためのチャレンジ ●●●●●・ICT、タブレット、センサー、機器の利活用を図るためのチャレンジ ●●●●●・認知症ケア、医療ニーズ、看取りケアのさらなる充実を図るためのチャレンジ ●●●●●・ビジネス（根拠）に基づいたケアを行うためのチャレンジ ●●●●●・ケアの効果の見える化を図るためのチャレンジ ●●●●●・ユニットケアの深化(24 時間サポートやケアプランの質の向上、パブリックスペースやボランティアの活用の在り方など)を図るためのチャレンジ ●●●●●・不可能を可能にする課題解決力のあるスタッフとなるためのチャレンジ ➤<u>地域共生社会の実現にチャレンジ！</u> ●●●●●・「人材」「施設」「機能」を最大限生かすためのチャレンジ ●●●●●・顧客の立場に立ち、暮らしの継続のための支援に向けたチャレンジ ●●●●●・あらゆる社会資源との連携を図るためのチャレンジ ➤<u>KAIGO スタッフの“魅力”“楽しさ”“深さ”の発信</u>

にチャレンジ！

- ・ 地域を支える専門職として活動するためのチャレンジ
- ・ インターネット、スマートフォン等によるリアルタイムの情報発信にチャレンジ
- ● ● ● ・ ICT、ネット、センサーの利活用へのチャレンジ
- ● ● ・ 学生、若者、高齢者、障がい者、外国人材等の雇用に対するチャレンジ
- ・ 知識・技術の確かさと、楽しさ・ユーモアが共存した職場づくりへのチャレンジ
- ・ 働き方改革を推進し、仕事の見える化を図るためのチャレンジ
- ・ ワークライフバランスを含めたさらなる労働環境の改善を図るためのチャレンジ

※各取り組みの達成度については、

○…達成できた

△…ほぼ達成できた（一部達成できなかった）

×…あまり達成できなかった で評価しています。

法人・各社会福祉事業の事業計画

法 人		評 価
〈理事・監事・評議員・ 総務係（事務部門）〉		
1.未来型思考の経営の徹底		
■月例会	○	➢計 12 回(4/2、5/1、6/1、7/2、8/1、9/3、10/1、11/1、12/1、1/4、2/1、3/1)
■幹部会議	○	➢計 12 回(4/19、5/21、6/20、7/19、8/20、9/18、10/20、11/19、12/21、1/19、2/20、3/20)
■連携会議	○	➢計 12 回(4/3、5/8、6/5、7/3、8/7、9/4、10/2、11/6、12/4、1/8、2/12、3/5)
■各部署会議の開催	○	➢特養:計 12 回(4/12、5/10、6/14、7/10、8/8、9/13、10/10、11/7、12/12、1/9、2/14、3/14) ➢デイ:計 12 回(4/10、5/10、6/9、7/10、8/10、9/10、10/10、11/10、12/10、1/10、2/11、3/12) ➢居宅介護支援:計 12 回(4/24、5/21、6/11、7/17、8/20、9/10、10/15、11/12、12/10、1/21、2/18、3/18)
■臨時会議の開催(随時)	—	➢開催なし
2.組織運営		
(1)適切な法人運営		
①理事会の開催	○	➢計 3 回(5/24、11/26、3/12):計 9 議案を審議、11 事項を報告
評議員会の開催	○	➢計 2 回(6/15、3/26):計 6 議案を審議、4 事項を報告
②法人の中身の見える化		
■監事監査の実施	○	➢5/16
■内部経理・予算監査の実施	○	➢5/16
■外部会計監査の実施	○	➢計 12 回(4/19、5/11、6/7、7/10、9 月はデータ送受により実施、8/10、10/12、11/12、12/12、1/17、2/8、3/4)
■社会保険労務士との相談強化	○	➢労務顧問契約継続 ➢10/10:ホームにおいて直接相談、その他メールによる相談
■ホームページ等における情報発信・情報公開【目標:年間 10 万ページビュー超】	○	➢ページビュー数:120, 574(前年度比: + 8. 7%) ➢ユーザー数 : 19, 094(前年度比: +75. 6%) ➢2 年連続 10 万ページビューを達成いたしました
■ご家族アンケートの継続実施	○	➢9 月～10 月にかけて実施いたしました ➢結果については、ご家族に郵送及びホームページにおいて公表いたしました
■職員アンケートの継続実施	○	➢9 月に実施し、結果について幹部会議等において検討をいたしました

■家族面会や見学者等、来訪者を増やす	○	>行事のご案内、NEWSLETTER、近況報告等のお手紙をお送りいたしました >ホームページの「グリーンホームだより」を日々更新し、日々の出来事や日常の報告、知識と適切な技術の中にもユーモアが存在する事業所であることを発信し続けました
■介護相談員(鈴鹿亀山地区広域連合)	○	>計 12 回(4/10、5/11、6/8、7/2、8/2、9/3、10/1、11/2、12/3、1/7、2/1、3/6)
■実習・職場体験	○	>5 月: 鈴峰中学校職場体験学習 4 名 >6 月: 三重県新規採用職員福祉体験研修 2 名 >7 月: 三重県新規採用職員福祉体験研修 4 名 >9 月～3 月: WAJYUN+(プラス)様 5 名
■ボランティア	○	～皆様ありがとうございました～ >(特養)音楽会ボランティア様、傾聴ボランティア様 >(デイ)音楽会ボランティア様、ハーモニカ演奏ボランティア様、やさしい 3B 体操様、フォークダンスボランティア様、スウィートポテト様(オカリナ)、ギター演奏ボランティア様、アロハオーブ様(フラダンス)、PUA・LEHUA 様(フラダンス)、なでしこ会様、深伊沢保育所様、みづきれい子様、川崎滝謡寿様、中村様(マジックショー)、玉垣小学校金管バンド様、鈴の会様、カナの会様、GG コンサート様、岸田保育園様【順不同】
■見学・取材等の受け入れ	○	>7/28: 亀寿苑様、8/28: ヘルプランツ様、9/11: 伊勢マリンホーム様、11/17: 栄光会様、12/11: CNS・中日新聞(鈴鹿法人会様より車いす・寄せ植え・壁掛けをご寄贈頂いた際)、1/14: 三重ベタニヤ様、1/22: かすみの里様、2/12: 亀山市南部地区まちづくり協議会福祉委員会様、2/19: 鈴鹿市健康福祉部長・健康福祉政策課、2/23: 三重テレビ様、3/26: 三重県知事
■地域との連携強化	○	>深伊沢地区社会福祉協議会理事拝命 >民生委員、自治会等との意見交換 >4/24: 深伊沢地区社会福祉協議会総会
③行政、地域包括支援センター等の関係機関との相談・連携強化	○	>8/2: 第 1 回鈴鹿西部包括地域ケア圏域会議出席 >8/10: 地域ケア個別検討会議出席 >8/23: 居宅大掃除支援 >10/16: 地域ケア個別検討会議出席
3.社会福祉法に沿った運営		
(1)地域貢献活動		
①低所得者等に対する支援の推進		
■社会福祉法人による利用者負担軽減制度	△	>対象者はありませんでした 対象者があった場合は速やかに対応してまいります
■三重県社会福祉法人地域	○	>継続して参画をいたしました

公益活動『みえ福祉の「わ」創造事業』への参画		
■法定雇用率を超える障がい者雇用の継続	○	➤障がい者雇用率 3 名 (H31.3.31 現在、職員 99 名中)
■就職が困難な方(障がい者・若年者・女性・高年齢者・児童福祉施設等からの退所者・外国人材など)の雇用推進	○	➤(H31.3.31 現在、職員 99 名中、複数選択) 障がい者:3 名(再掲)、若年者:26 名、女性:63 名、高年齢者:16 名、児童福祉施設等からの退所者・外国人材等:1 名
②認知症高齢者のサポートの推進		
■認知症キャラバン・メイト(鈴鹿市・鈴鹿市西部地域包括支援センター)への参画	○	➤ 4/22: 鈴鹿市認知症キャラバン・メイト連絡協議会出席 11/15: 認知症サポーター養成講座協力
■認知症介護実践者・リーダー研修等の受講	○	➤認知症介護実践リーダー研修: 特養 2 名受講
■定期的に学びの機会を持つ	○	➤会議内及び採用時等に認知症ケアに関する研修等を実施しました
③地域の見守り活動の推進		
■子どもを守る家(鈴鹿警察署・PTA・鈴鹿市)賛同	○	➤ホーム建屋(通学路に向かって)にステッカーを掲示(保護児童・児童:0 名)
■鈴鹿市徘徊高齢者等のための安心ネットワーク(社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会)への賛同	○	➤連絡を受けた際には、各部署職員に情報を伝達し、注意を促しました
■地域見守り活動【スクールリーダー】(鈴鹿市教育委員会)への賛同	○	➤保有車両にステッカーを掲示し、地域で活動しております
④各種啓発活動の推進		
■特殊詐欺【振り込め詐欺等】対策の実施(郵便局と協同)	○	➤地域に配布し、特殊詐欺防止にかかる啓発を行いました(6,145 通)
■感染症防止(ノロウイルス・インフルエンザ等)熱中症防止等の推進	○	➤4/26: ショートステイ棟に低濃度オゾン発生装置設置 ➤ホームページ、リーフレットによる啓発 ➤介護予防普及啓発事業時の啓発 ➤感染症対策委員会からの啓発・報告(計 12 回) ➤ホーム内への感染症持ち込み防止対策として 1/22～2/22 の間、特養・ショートステイの面会を一時中止いたしました
⑤介護相談・介護予防等の実施		

■介護予防普及啓発事業 ■介護・健康等無料相談 ■車いす等無料貸出	○ ○ ○	※在宅介護支援センター事業報告をご覧ください ➢9/1:いきいき介護フェスタにスタッフ1名を派遣しました ➢11/18:石薬師ふれ愛フェスティバルに管理栄養士2名とメンタルコミットロブ・パロを派遣しました ※在宅介護支援センター事業報告をご覧ください
◎その他、地域における活動の推進		
■災害義援金	○	➢所轄庁の承認手続を踏み、西日本豪雨、北海道胆振東部地震に対する義援金をお送りしました(当法人→全国老施協→各被災施設)
■亀山高校方言調査協力	○	➢9/22
■鈴峰中学校体育祭への参加	○	➢9/19:ご入居者とともに参加しました
■いきいき介護フェスタへの協力(鈴亀ブロック老人福祉施設協会)	○	➢9/1～9/3:作品展示及びパンフレットの設置並びにスタッフ派遣を行いました
■交流会の参加(鈴亀ブロック老人福祉施設協会)	○	➢10/25:特養ご入居者とともに参加しました
■各種関係団体等の委員会・研修会等への委員・講師派遣	○	➢公益社団法人全国老人福祉施設協議会 21世紀委員会幹事 ➢三重県老人福祉施設協会 調査研究・研修委員長 ➢三重県老人福祉施設協会 21世紀委員会委員 ➢社会福祉法人三重県社会福祉協議会 社会福祉施設職員研修委員会委員 ➢三重県福祉人材センター 介護人材確保対策連携推進協議会委員 ➢社会福祉法人三重県社会福祉協議会 小規模事業所等人材育成支援研修講師 ➢三重県福祉人材センター・皇學館大学 福祉のシゴト説明会講師 ➢アクセシブルデザイン食器機構研究会委員 ➢三重県「認知症ケア製品等開発・普及加速化事業」現場ニース型ワークショップ等
■地域高齢者見守り体制整備(鈴鹿市より受託)	○	➢実績0件 ※在宅介護支援センター事業報告をご覧ください
4.法人理念に沿った行動		
■目標：職員浸透率100%	○	➢会議、ミーティング、書類、ホームページ、採用説明時、名刺記載等により、さらなる浸透を図りました
(1)ご家族、地域との交流		



■創立 25 周年記念行事 (5 月 12 日)	○	➤12 家族、21 名の方にご参加いただきました	
■敬老祝賀会(9 月 17 日)	○	➤スタッフ全員でお祝いするとともに行事食を提供いたしました	
■グリーンの秋まつり (10 月 8 日)	○	➤特養入居者ご家族 32 名、介護予防普及啓発事業ご利用者 25 名にご参加いただきました ICT 技術を用いた中継に加え、災害用キッチンカーを手配し、食事(カレー・ピザを提供)を提供すること等により、防災意識の向上につなげることができました	
■クリスマス会(12 月 15 日)	○	➤9 家族、28 名の方にご参加いただきました	
■家族懇談会(3 月 10 日)	○	➤9 家族、13 名の方にご参加いただき、地域の状況や事業所の取組報告、介護予防の取組(トレーニングマシン、レッドコート®)を体験いただきました	
(2) 地域課題の解決に向けた取り組み			

■地域に不足している介護サービス等の検討・創出	○	➢H30.1 にデイサービスセンター・ショートステイを増築し、地域のニーズに副った運営を行うことができました ➢ 7/5:三重県にショートステイ 20 床特養転換増床申請提出(結果:不受理) ➢ 6/ 1 園田参議院議員との意見交換 ➢ 6/ 1:全国社会福祉協議会齋藤会長との意見交換 ➢ 6/ 1:全国老人福祉施設協議会石川会長との意見交換 ➢ 6/10:地域のお元気な方を対象としてトレーニングマシンの体験会を開催 ➢ 6/11:鈴鹿市医師会在宅医会において、ショートステイの看取り事例報告 ➢ 6/29:老人保健福祉施設整備計画に関する事業者説明会参加 ➢ 7/5:三重県に 20 床増床申請提出(結果:不受理) ➢ 7/ 1:川崎衆議院議員、末松鈴鹿市長との意見交換 ➢ 7/ 9:末松鈴鹿市長、鈴鹿市健康福祉部長との意見交換、事業所見学 ➢ 8/ 1:平野鈴鹿市議会議員との意見交換 ➢ 9/11、1/21、2/ 7:山中市議会議員との意見交換 ➢10/15:三重県ライフイノベーション課、三重県産業支援センターとの意見交換 ➢10/22:全国老人福祉施設協議会理事との意見交換 ➢ 1/ 7:三重県ライフイノベーション課「認知症ケア製品等開発・普及に関するワークショップ」出席 ➢ 2/12:鈴鹿市健康福祉部長、健康福祉政策課との意見交換 ➢ 3/ 6:藤田県議会議員との意見交換、事業所見学 ➢ 3/10:在宅サービス利用者家族懇談会開催 ➢ 3/26:鈴木三重県知事との意見交換、事業所見学
5.人材の確保・育成		
(1)採用等につながる活動の継続		
■各種就職フェア等への参加	○	➢ 5/30:福祉のシゴト説明会講師派遣(於:皇學館大学) ➢ 7/8:「福祉・介護・看護の就職フェア」参加 ➢ 8/9:「若者応援就活フェア」参加 ➢10/4:障がい者就職面接会参加 ➢11/17:「福祉・介護・看護の就職フェア」参加
■ホームページや専門誌等による情報発信	○	➢日々、ホームページ「グリーンホームだより」を更新し、介護の魅力や深さ等について発信いたしました
■ボランティア、実習生、職場体験受入	○	※「法人 2-(1)-②」をご覧ください

■鈴鹿市ワークキャンプ賛同	○	>5/23:第1回鈴鹿市社会福祉施設連絡協議会出席 >7/24:鈴峰中学校ワークキャンプ(生徒6名参加) >8/24:鈴西小学校ワークキャンプ(生徒10名参加) >9/21:第1回鈴鹿市社会福祉施設連絡協議会出席
■各種研修会への講師等派遣	○	>全国老協カントリーミーティング(中国ブロック・九州ブロック・東北ブロック) >5/30:福祉のシゴト説明会(於:皇學館大学) >8/28:小規模事業所等人材支援研修講師
■「みえ働きやすい介護職場取組宣言事業所証明書」取得	○	>10/29:三重県庁、スタートセレモニーに出席し、知事より第1号の証明を受けました
■みえ介護フェア2018への参画(於:イモール鈴鹿)	○	>11/10:マッスルスーツ®(イノイス社製)の体験コーナー及びステージプログラムを担当しました/「みえ働きやすい介護職場取組宣言事業所」として事例報告を行いました
■施設内外研修の受講、勉強会の開催	○	※以降をご覧ください



事業所外：計91回受講、延べ182名参加

事業所内：計21回開催、延べ183名参加

合計112回、延べ365名参加

日程	研修名等	部署・人数
4/12	鈴鹿西部地域包括支援センター合同事例研究会	居宅介護支援1名
4/14	「認知症機能低下予防プログラム シアトロロジーとは」	居宅介護支援1名
4/20	施設ケアマネジャー研修	特養1名
4/22	鈴鹿市認知症キャラバン・メイト連絡協議会第5回研修会「認知症でも笑顔のままで」	居宅介護支援2名 デイ1名
4/24	【事業所内】ケースファイルの開示	居宅介護支援7名
4/29	自立支援介護導入&実践セミナー in 亀山	総務1名 特養4名
5/11	職場体験受入事業所指導担当職員研修会	特養1名
5/18	国際福祉健康産業展	デイ1名 居宅介護支援2名
5/19	介護報酬加算算定推進セミナー	総務1名
5/22	【事業所内】「身体障害等級と補装具の購入と修理について」「聞こえと補聴器、聴覚トレーニングについて」	居宅介護支援6名
5/28	第1回鈴鹿西部地域包括ケアマネジャー支援会議「実地指導を万全に乗り切るための介護報酬改定後の算定用件の確認と次期介護保険制度改正の動き」	居宅介護支援5名

5/29、30	全国老施協 21 世紀委員会拡大委員会	総務 1 名
6/6	社会福祉施設のブランディング	特養 1 名 居宅介護支援 1 名
6/9	制度改正と報酬改定を踏まえた介護支援専門員のあり方	居宅介護支援 1 名
6/11	【事業所内】ND ソフトウェア「介護業務支援ソフトほのぼの」「音声入力ソフト Voice Fun」デモ説明	居宅介護支援 6 名
6/13	元気を引き出す“楽ワザ”介護術”	特養 1 名
6/14	俯瞰的・客観的に事例をとらえる視点	居宅介護支援 4 名
6/15	新規要介護認定調査員実務研修会	居宅介護支援 1 名
6/20	福祉避難所について	特養 2 名
6/21	知って得する!!介護保険事務の流れ・算定のポイント解説	総務 1 名 特養 1 名
	介護保険サービス事業者等集団指導	総務 1 名 デイ 1 名
6/23	第 15 回三重中勢緩和ケア研究会「がん患者を取り巻く環境の変化と対応」「熊本での緩和医療の現状」	居宅介護支援 1 名
6/25	管理栄養士・栄養士研修会	総務 1 名
7/3	社会福祉法人役員及び幹部職員研修会	総務 1 名
7/4	他職種親睦会	総務 1 名 居宅介護支援 2 名
7/10	【事業所内】救急救命講習会	総務 1 名 特養 12 名 デイ 1 名 居宅介護支援 4 名
	医師会フォローアップ研修	居宅介護支援 2 名
7/12、13	東海北陸ブロック老人福祉施設研究大会	本部 1 名 総務 1 名 特養 1 名
7/17	【事業所内】「熱中症について」	居宅介護支援 6 名
7/22	福祉避難所設置・運営開設訓練	特養 2 名
7/23	社会福祉法人永甲会障害者生活介護事業所サクラ園様に見学	総務 1 名 特養 2 名 デイ 2 名 居宅介護支援 2 名
7/25	鈴鹿市医師会在宅医療ケア勉強会	居宅介護支援 1 名
8/20	【事業所内】小規模多機能型居宅介護について	居宅介護支援 6 名
8/21	鈴鹿地区老施協県外視察研修	特養 2 名
	指定居宅介護支援事業所等集団指導	居宅介護支援 1 名
8/22	都道府県経営協セミナー	特養 1 名
8/31、9/1	日本高齢者虐待防止学会	総務 1 名 居宅介護支援 2 名
9/7	【事業所内】福祉避難所開設等研修(避難所運営体	特養 13 名

	験ゲーム(HUG))	医務 2 名
9/10	【事業所内】虐待防止について(日本高齢者虐待防止学会の参加伝達研修)	居宅介護支援 6 名
9/13	健康確保セミナー	総務 1 名
	鈴鹿西部圏域合同事例研究会	居宅介護支援 6 名
9/14	要介護認定調査員現任者研修会	居宅介護支援 3 名
9/15	「災害時のケアマネジメントについて」	居宅介護支援 1 名
9/20、21	東海北陸ブロックカンントリーミーティング	総務 1 名 特養 3 名
9/22	【事業所内】褥瘡予防・ポジショニング勉強会	特養 6 名
10/2	【事業所内】非常用発電機の取扱い・給油研修	総務 1 名 特養 2 名 居宅介護支援 1 名
10/3	権利擁護に関する研修会	総務 1 名 特養 2 名
10/4	全国老施協トップセミナー	本部 1 名 総務 1 名
10/5	アンガーマネジメント研修	特養 3 名
10/9、10	喀痰吸引等指導者養成研修	医務 1 名
10/9	リーダーやこれからリーダーになる人のための研修会	総務 1 名 特養 6 名
10/11	Value Presentation 2018	総務 1 名 居宅介護支援 1 名
	要介護認定調査員現任者研修	居宅介護支援 3 名
10/15	【事業所内】栄養ケアプロセスと製品紹介	居宅介護支援 6 名
10/18	口腔ケアに関する研修会	総務 1 名 特養 4 名
10/19	【事業所内】講話(文化行事)	総務 1 名 特養 7 名
10/20	労務管理研修会	総務 1 名 特養 1 名
	「ケアマネジメント関連制度改正の具体的対応」	居宅介護支援 1 名
10/22、25	バイタルリンク新システム概要説明会	居宅介護支援 2 名
10/24	「精神科病院への医療保護入院の繋ぎ方と地域移行の支援について」	居宅介護支援 2 名
10/26	介護予防従事者研修会	デイ 1 名 居宅介護支援 1 名
11/1、2、7、8、 14、16、20、22、 27、30、1/16	認知症介護実践リーダー研修	特養 2 名
11/5	腰痛予防対策研修会	特養 1 名
11/6	ワークライフバランスに関する研修会	総務 2 名 特養 1 名 居宅介護支援 1 名
	放課後等デイサービスりんぐりんぐ鈴鹿様見学	特養 2 名 デイ 1 名 居宅介護支援 3 名
11/9	みえ福祉用具フォーラム 2018	特養 1 名 居宅介護支援 1 名
11/12	【事業所内】ケアマネジメント関連制度改正への具体的	居宅介護支援 6 名

	対応～改正施行後の疑問解消～（介護支援専門員協会研修の伝達研修）	
11/14	在宅部会研修会	デイ1名
11/19	運営管理研修会	総務1名
11/20、21	全国老人福祉施設大会	総務1名
11/29	職能部会研修会・意見交換会	医務1名
12/4	第3回鈴亀ブロック老施協研修会	特養1名
12/5	LGBTと多様性	総務1名
12/6	課題別研修会V	特養2名
12/8	魅力ある職場づくり・人づくり研修会	特養2名
12/10	【事業所内】結核について	居宅介護支援6名
12/12	経営分析指標に関する研修会	本部1名 総務2名
	急性期医療の相談援助と地域包括ケア病棟について	居宅介護支援2名
12/13	第6回鈴鹿西部包括支援センター地域ケア圏域会議「高次脳機能障害の方への支援・関わり方について」	居宅介護支援2名
12/20	ユニットケアフォローアップ研修	特養3名
12/30	【事業所内】リフトの使い方研修	特養1名
1/7	認知症ケア製品等開発・普及に関するワークショップ	総務1名
1/8	広報研修会	デイ1名
1/10	Kaigo カフェアシリテーター養成講座	特養1名
1/18	みえぎん新春講演会	本部1名 総務1名
1/21	【事業所内】道路交通法改正による変更点について	居宅介護支援6名
1/28	全国老施協新春トップセミナー	本部1名 総務1名
2/1	看取り事例発表会	医務1名
2/5	集団的相談指導会	総務1名
2/6	豊かな介護人材が揃う魅力ある職場づくりセミナー「がん患者に対する相談援助と緩和ケア病棟の機能について」	特養1名 居宅介護支援1名
2/8	三重老施協 21世紀委員会勉強会	特養1名
2/15	地域共生社会実現フォーラム	居宅介護支援1名
2/18	【事業所内】認知症保険について	居宅介護支援6名
2/19、20	甲種防火管理者講習	医務1名
2/21、22	東海北陸ブロック 21世紀委員会合同委員会	総務1名 特養1名
2/26	三重県デイサービス協議会研修会	デイ1名
2/26	三重老施協在宅部会研修会Ⅲ	デイ1名
2/27	パートタイム・有期雇用労働法等説明会	総務1名
2/28	多職種連携研修会「古くて新しい皮下注射」	医務4名

3/1	全国経営協高齢者福祉事業経営セミナー	本部 1 名
3/2	シルバーフォーラムみえ	総務 1 名 居宅介護支援 1 名
3/4	「ケアプラン点検事業から見た、あなたの事業所の質」	居宅介護支援 1 名
3/5	「働き方改革関連法の内容の理解とその対応について」	総務 1 名
3/12	新たな外国人材受入れに係る制度説明会 【事業所内】ボイストレーニング勉強会	総務 1 名 本部 1 名 総務 1 名 デイ 6 名 居宅介護支援 1 名
3/13	災害福祉支援セミナー	特養 1 名
3/18	【事業所内】コミュニケーション研修 【事業所内】ケースファイルの開示	総務 3 名 特養 7 名 医務 1 名 デイ 10 名 居宅介護支援 6 名
3/19	【事業所内】安全運転講習・腰痛予防研修	総務 2 名 特養 9 名 医務 3 名 デイ 8 名 居宅介護支援 5 名
3/22	「要介護者台帳のあり方と地域連携について」	居宅介護支援 1 名
3/24	要介護認定審査会委員新規研修会	特養 1 名
■資格取得の推進	○	>介護福祉士国家試験 3 名受験 >ユニットリーダー研修 1 名受講 >認知症介護実践リーダー研修 2 名受講 >甲種防火管理者講習 1 名受講
■キャリアパスシステムと人事考課制度・目標管理制度の効果的な運用	○	>6 月、12 月：人事考課を実施いたしました
■キャリアアップと就業規則、給与規則等の連動	○	>10/1:「人事考課キャリア・スキルアップ個別目標設定支援シート」を作成しました
■育成担当者の育成強化	○	>「リーダーやこれからリーダーになる人のための研修会」7 名受講 >その他各種研修受講 >幹部会議、業務改善会議等において最新情報をインプット
■ホームページや研究大会等における事例報告	○	>7/13: 東海北陸ブロック老人福祉施設研究大会において事例発表を行いました ※資料についてはホームページ「情報公開」に掲載しています
■関係団体が実施する研修会への講師・委員等派遣	○	※「法人 3-(1)-⑥」をご覧ください
(3)働きやすい環境の整備		

■「みえ働きやすい介護職場取り組み宣言事業所」証明書の取得	○	➢10/29:三重県庁、スタートセレモニーに出席し、知事より第1号の証明を受けました
■職員入浴等の環境の改善	△	➢デイサービス休憩室にオフィスコンビニを継続設置
■職員交流の機会の推進	○	➢5/19:新入職員歓迎 BBQ、12/1:忘年会、2/23:望年度会、7/31・11/15:各部署親睦会
■働き方の改善	○	➢センサー型ロボット「眠り SCAN」、音声入力ソフト「Voicefun」、インカム等の機器やテクノロジーの利活用 ➢衛生委員会において検討 ➢みえ福祉第三者評価改善計画の継続した取り組み
■その他	○	➢4/1:理事長賞表彰 ➢5/12:永年勤続表彰(法人) ➢5/30:永年勤続表彰(三重老協)
6.職員の安全衛生管理の向上		
(1)衛生委員会の機能強化		
■基本方針：労働災害のない安全で健康に働くことができる快適な職場の実現を図る ・目標:働き方を改善して、仕事と家庭の両立を図る	○	➢4/19、5/21、6/20、7/19、8/20、9/18、10/20、11/19、12/21、1/19、2/20、3/20 開催(計12回) ➢インフルエンザ予防接種実施(11月) ➢健康診断実施(5/25、2/19) ➢5/11:ハローワーク雇用主説明会出席
(2)介護ロボット・センサー・機器、ICT等の利活用		
■導入・利活用の推進	○	➢センサー型ロボット「眠り SCAN」や音声入力ソフト「Voicefun」、インカム等の利活用を図りました
■介護ロボット導入支援事業等助成金などの活用	×	➢助成金未活用
■家庭・介護・治療と仕事の調和(ワークライフバランス(WLB))等の取り組み	△	➢衛生委員会において継続検討 ➢育児休業1名取得 ➢療養による休業1名
7.介護事故防止対策の徹底		
■データと根拠に基づいた発生予防・再発防止対策の徹底	○	➢幹部会議等、会議において分析、検討 ➢書類による情報共有
8.高齢者虐待防止の徹底		
■他の虐待事例を教訓とした啓発や教育の強化	○	➢採用時に研修を行いました ➢「高齢者虐待防止学会」3名聴講 ➢「権利擁護に関する研修会」3名受講と内容のフィードバック ➢報道があった事例について都度、職員に発信し、啓発を行いました

9.身体拘束廃止の徹底		
■基本方針:身体拘束は原則〆とする 指針:「身体拘束〆の手引き」等	○	>会議において適正化に関する検討等を行いました >採用時に全職員に研修を行いました >「権利擁護に関する研修会」3名受講と内容のフィードバック
■定期的な会議の開催・研修会の開催又は受講	○	>研修会を開催いたしました(計2回)
10.防犯対策の徹底		
■防犯体制の強化	○	>防犯カメラを更新しました
11.非常災害対策の徹底		
■東日本大震災・熊本地震等の被災例を教訓とした防災行動マニュアル・事業継続計画(BCP)に沿った体制等を強化	○	>事業継続計画(BCP)を一部改定いたしました >8/13:緊急メール送受信訓練実施(計85名) >9/4:長時間停電時にBCPに沿った行動をとり、検証により、不足していると思われる備品等の調達を行いました 又停電時においてもホームページから情報発信を行いました
■台風・記録的短時間大雨等の被災例を教訓とした各防災計画に沿った体制等を強化	○	>災害用備蓄品を追加購入(ホリタンク・インカム・インバーター等) >10/2:【事業所内】非常用発電機の取扱・給油研修開催 >台風による長時間停電事例について、行政・議員・団体等へ課題を提起いたしました
■消防計画に沿った体制等を強化	○	>【事業所内】消防訓練を実施しました(計2回) >【事業所内】5/21:垂直救助袋避難体験
■福祉避難所としての機能を強化	○	>7/10:救急救命講習会を開催しました >7/22:福祉避難所設置・運営開設訓練に参加しました >9/7:事業所内において「避難所運営体験ゲーム(HUG)」を実施しました >2/19・2/20:甲種防火管理者講習1名受講 >3/13:災害福祉支援セミナーを受講しました
12.その他		
■太陽光発電売電事業運営	○	>適切に管理、運営いたしました

※各社会福祉事業・公益事業の報告については、別紙をご覧ください。

別紙

1. 特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)の状況

(1)入居者の状況 定員 50 名(平成 31 年 3 月 31 日現在)

※割合の合計について、端数処理の関係上 100%にならないことがあります。

■要介護度【平均要介護度:4.23】

要介護区分認定	人数(人)	割合
要介護 1	0	0.0%
要介護 2	2	4.2%
要介護 3	8	16.7%
要介護 4	15	31.3%
要介護 5	23	47.9%
計	48	100.0%

■性別・平均年齢

性別	人数(人)	割合
男性	12	25.0%
女性	36	75.0%

■食事の状況

副食等の形態	人数(人)	割合
常食	21	43.8%
刻み食	10	20.8%
ソフト食	11	22.9%
ペースト食	4	8.3%
経管栄養	1	2.1%
その他	1	2.1%
計	48	100.0%

■負担限度額認定

負担限度額認定区分	人数(人)	割合
第 1 段階	1	2.1%
第 2 段階	11	22.9%
第 3 段階	19	39.6%
第 4 段階	17	35.4%
計	48	100.0%

【平均:87.21歳】

平均年齢(歳)	最高齢(歳)
83.42	92
88.47	105

■入浴の状況

浴槽の種類	人数(人)	割合
個浴(ひのき風呂)	7	14.6%
機械式個浴	17	35.4%
個浴+リフト	8	16.7%
車いす浴槽	8	16.7%
寝台式浴槽	8	16.7%
計	48	100.0%

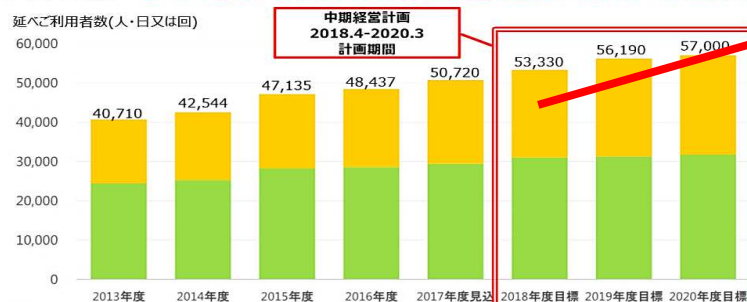
(2)入居申込者の状況(平成 31 年 3 月 31 日現在)

127名(男性47名、女性101名)、うち80点以上:79名

2. 中期経営計画(2018.4-2021.3)経営目標値評価

中期経営計画 2018.4-2021.3 『KAIGO(介護)の質の“見える化”を目指して』

7. 経営目標 ～多くのみなさまにご利用いただけることは社会福祉法人としての“地域信頼の証”～



昨年度は、延べ
53,330 名の計画で
したが、55,454 名の方
にご利用いただきました
(対経営目標値比
104%)



在宅系サービス(デイサービス・ケアマネジャー・在宅介護支援サービス)
入居・滞在系サービス(特養・ショートステイサービス)



第一性社公福社争来

名 称

特別養護老人ホーム 鈴鹿グリーンホーム
(三重県指定 2470300274 号)
“真剣にニットケアに取り組んでいます”

暮らし

特別養護老人ホーム
[介護老人福祉施設]

所在地	鈴鹿市深溝町字北林 2956 番地		
定 員	50 床(5 ユニット)		
平成 30 年度 事業計画目標	「KAIGO【介護】の質の“見える化”をめざして」 ～いろんな SINKA（進化・深化・新化・真価・神化・・・）～		
事業報告	【特養係・介護部門】 ➤未来型の KAIGO にチャレンジ！		
	計画内容	評 価	
	■根拠に基づいた介護、自立支援介護の実践、継続	○	➤研修会等の状況について「法人 5.(1)」又はホームページを参照ください
	■口腔ケアの質の向上、看取り介護、褥瘡予防の継続	○	➤歯科医師・歯科衛生士によるスタッフへの助言・指導(計 11 回) ➤看取り、褥瘡への学び(計 6 回) ➤褥瘡予防への学び(計 6 回)
	■介護用具の活用、身体拘束は廃止を基本とする ■（高品質のサービスが）「変わらない」ために、（私たちが）「変わり続ける」	○	➤膀胱用超音波画像診断装置（リリアム α-200）・メンタルコミットロボット（パロ）・眠り SCAN・リフト浴・マッスルスーツ・HAL・スタンディングリフト・床走行式リフトの使用 方法への学び(計 12 回)
	➤地域共生社会の実現にチャレンジ！		
	計画内容	評 価	
	■法人理念に沿った行動	○	➤「法人 4.」をご覧ください
	■地域貢献活動の推進	○	➤「法人 3.(1)」をご覧ください
	■あたりまえのことをあたりまえに	○	➤当事業計画各項目をご覧ください
➤KAIGO スタッフの“魅力”“楽しさ”“深さ”の発信にチャレンジ！			
計画内容	評 価		
■人材確保につながる活動の継続	○	➤法人「5.(1)」をご覧ください	
■ホームページの活用、発信	○		
■ふわっとしたユーモアと楽しさがある職場に	○		
	【特養係・ソーシャルワーク/ケアマネジメント部門】 ➤未来型の KAIGO にチャレンジ！		
	計画内容	評 価	
	■ユニットの深化、認知症ケア、医療ニーズ、看取りケアの更な	○	➤月 1 回以上各ユニットにて検討会議を開催(医療職、介護

	る充実：根拠に基づいた介護、自立支援介護の実践		職、栄養士、管理職等多職種の参加) ➢3 ヶ月に一回、ケアプランと 24 時間シートを更新 ➢常時、入居者の急変時等における医療ニーズ、看取りケアについてご本人、家族、医療職と意見交換を行いました
	■情報通信機器（ICT）、ロボット、センサー、機器の利活用とケアの効果の見える化を図る	○	➢介護支援ソフト使用により毎日の介護記録やデータを電子化ケアの効果や記録データの振り返りが可能となり見える化が容易になった ➢記録時間に関しては、約 3～5 割の時間短縮につながった ➢床移動リフトを活用：職員の腰痛予防、腰痛発症の軽減、入居者の心理的負担の軽減 ➢パロ（コミュニケーションロボット）：認知症高齢者の行動心理症状の軽減（孤独感、うつ状態など）により日中覚醒と夜間熟睡の効果があつた 職員の対応時間の軽減（約 1 割程度）
	■入居者の生きがいや社会活動、参加などを考慮した一人ひとりの役割づくり	○	➢国際生活機能分類（ICF）の考え方をを用いて、高齢者の生活リハビリに対し、活動、参加に重点を置くよう ICF の視点に基づいて作成したケアプランは 48 件中 31 件となっている
	■（福祉の基本理念が）「変わらない」ために、（私たちが）「変わり続ける」	○	➢最新の知見や情報をスピーディーにケアの改善につなげることができました
➢地域共生社会の実現にチャレンジ！			
計画内容		評価	
■地域の複雑化、多様化したニーズに応える		○	➢スタッフ全員が基本的に断らないスタンスであり、常に利用

			者、家族のニーズに応えられるかを考えて対応することができた
■入所施設ではなく住まい（入居施設）としての支援を続ける	○	➤	ユニット型特養として入居者ひとり一人の生活リズムや嗜好等のニーズに応え、24時間シートにより統一ケアの対応することができた
➤KAIGO スタッフの“魅力”“楽しさ”“深さ”の発信にチャレンジ！			
計画内容		評価	
■法人ホームページの内容の充実化、グリーンホームだよりによる自分たちの取り組み(日常の介護現場)を発信する	○	➤	「グリーンホームだより」に各ユニットでの取り組みを発信することができた ➤5 ユニットの年間発信数は年間44回 ➤ユニット(すずらんユニット9回、すみれユニット16回、さくらユニット9回、ひまわりユニット10回)
■勉強会、研修会への参加、資格取得への支援など常に学ぶ風土をつくり、専門職としての意識を向上させる	○	➤	年間6回以上勉強会、研修会にて知識を身に付け、専門職としての自信やプライドを持って仕事に取り組めた また、スタッフ自身の働きがいや働きやすさ、離職率の低下につながった
■働きやすい職場づくり、ワークライフバランス実現への取り組み	○	➤	年2回透明性の高い人事考課制度により、スタッフが各自の年間目標を立て、自身で振り返ることやリーダーや上司と気軽に意見交換ができる環境につながった ➤年2回以上身体拘束廃止に向けた勉強会を実施 不適切ケアが発生しにくく、不要な身体拘束、虐待行為などを排除することが離職率低下にもつながった
【各ユニット運営計画】			
※詳細については、ホームページ「グリーンホームだより」又は各ユニット玄関に設置している冊子をご覧ください			

(1) こすもすユニット	
計画内容	評 価
■24 時間シートに最新の情報を記載する ■24 時間シートの内容を誰が見てもすぐにわかりやすい内容に差が出ないようにする ■活動・参加を 24 時間シートに反映させ、毎日の生活を曜日で変化をつけて、リリィのある生活を入居者に過ごしていただく ■家での生活と同様に生活できる機能をユニット内に充実させ、家との連続した生活を営んでもらえる環境を整備する	➢24 時間シート内容変更時に修正・変更を延べ 12 回(ユニット会議時)に実施 ➢内容をスタッフと共有し、ご本人が希望するケアにつなげることができました
■月 1 回以上で入居者の家族に面会時、電話などで連絡を行い、入居者の近況や必要な物などをお知らせする事で、情報の見える化を図る	➢月に1回程度、電話にて連絡・報告を行うとともに NEWSLETTER や行事の開催案内、ホームページ等により近況のご案内をしました ➢もう少し細やかに連絡をしたいと思います
■ボランティアを活用し、本物の教室やサークル活動を実施する	➢ご入居者の希望に基づき、音楽を楽しむ会に参加いただきました
■食事・入浴に関しては別表のユニット一覧表を作成し、介助等の差が職員により生じないようにする	➢一覧化することにより、ケアの内容の統一化を図ることができた
■ご家族からの連絡事項や面会時の話などの情報を記入する用紙を作り、情報伝達を円滑にする	➢個人ファイルに記入することで、共有を図りました
■月次報告書を作成し、ユニットでの業務等の進捗及び入居者の状態の一覧化を行い、ユニット内・施設内でこすもすユニットの状態をわかりやすくする	➢月次報告書の形態ではなく、ユニット会議時(計 12 回)に実施しました
■ユニット内を清潔に保ち、入居者は健康に過ごしやすい、家族は面会時に気分が良く、職員は働いていて気持ち良い状態を保つため、週・	➢人材の活用や業務を分担することにより、環境の整備を進めやすくなりました

	月・季節・年単位での清掃計画を策定し実施する	
	■グリーンホームだよりにてユニット全職員が発信を行い、ユニットの様子や取り組みを伝える（全職員が月1回の発信を行う）	➢4/9:「こすもすユニット ユニット運営計画書です。」 ➢9/17:「敬老の日」 ➢9/19:「おいしいカップうどん♪」 ➢10/6:「アンガーマネジメント研修を受講しました。」 ➢10/31:「今日はハロウィン！」 ➢12/8:「魅力ある職場づくり・人づくり研修に参加しました。」 ➢12/24:「モーニングに出かけました。」 ➢12/24:「クリスマス」 ➢12/27:「お正月に向けて生花をしていただきました」 ➢1/20:「お鏡さんでぜんざい♪」
	■月1回ペースでユニット内勉強会を行い、職員のユニットケアへの理解、知識の向上、介護技術の習得など、能力向上を目指す	➢ユニット会議時(計12回)に実施しました
	■ひまわりユニット(協力ユニット)と共同で懇親会を行い、職員間のコミュニケーションの向上と職員のストレスケアを行う	➢5月に新人職員歓迎会のBBQを開催しました
	【その他の取り組み】	
	■HAL、リフト浴の介護機器を使用し、職員の身体的負担軽減、ご入居者の安心感の向上を目指す	➢1年を通じて利活用を図りました ➢機器に課題等があった場合には、メーカーに改善要望等をしていきたいと思っています
	(2) ひまわりユニット	
	計画内容	評価
	■法人理念をユニット職員に浸透させ、毎日の業務における判断の基準とする	➢ユニット会議時(計12回)にスタッフで唱和し浸透を図りました
	■24時間シートに最新の情報を記載する	➢24時間シート内容変更時に修正・変更を延べ12回(ユニット会議時)に実施 ➢内容をスタッフと共有し、ご本人が希望

		するケアにつなげることができました
■居室に持ち込み家具を増やすことで、自分の居室と入居者に認識していただく		➤自宅から持参していただいたり、各ユニットで交換してもらったものなどを活用したりして、できる限り家をイメージできる環境になるよう努めました
■居室の入り口を自分の部屋がどこかを一目でわかるようにして、入居者の生活に迷いが無いようにする		➤居室の前に何を置くか、ご入居者と相談しながら進めることができました
■ユニットにてサークル活動を実施し、入居者が楽しみながら活動ができる空間を提供する		➤ご入居者の希望に基づき、音楽を楽しむ会に参加いただきました
■外出機会の増加を入居者のニーズに合わせて行う		➤入居者の要望に合わせて、2ヶ月に1度近隣スーパーなどへの買い物へ行きました ➤計12回移動スーパー、移動パン屋さんが訪問していただきました
■入居者が自分で出来る事は自分で自由にできる環境を整え、自立した生活を送っていただく		➤環境のレイアウト変更を行い、その後も改善が必要なところは都度環境整備に努めました
■個々の入浴のマニュアル化を行い、職員での入浴介助の内容の違いをなくす		➤マニュアルを作成し、実行しました
■入居者の好みに応じた料理などをユニットで行い、楽しみと入居者同士の関わりの機会の増加を図る		➤計6回、ご入居者とともにお菓子や料理をつくりました ➤実施した内容をホームページ「グリーンホームだより」にて発信しました
■ウッドデッキで食事やティータイムを楽しんでいただき、季節を感じていただいたり、ユニット外への外出機会の増加を図る		➤気候のよい時にウッドデッキを散歩しました
■ユニット内を清潔に保ち、入居者・家族が過ごしやすい環境にする		➤ユニットケアチェックリストに従い、清潔・清掃に取り組みました
【その他の取り組み】		
■褥瘡予防ケア ■水分ケア ■介助リフトの利活用 ■スタッフの身体負担軽減		➤ユニット会議(計12回)時に実施、各種研修会の受講、受講後のフィードバック勉強会の開催、施設長・リーダーによる指導・育成等を行いました

■情報発信	➢月に1回程度、電話にて連絡・報告を行うとともに、NEWSLETTERや行事の開催案内、ホームページ等により近況のご案内をしました
(3) すずらんユニット	
計画内容	評 価
■その方の状態にあった 24 時間サポートになっているか確認し、どのスタッフでも同じケアができる	➢ユニット会議(計 12 回)時に確認
■ユニットを超えた人たちとの交流の場、ユニットから一歩踏み出し、新たな関係性を築く場として、生活そのものを広げることができる	➢いきいき介護フェスタ:ご入居者 3 名参加 ➢毎週金曜日音楽を楽しむ会:ご入居者 7 名参加 ➢移動パン屋さんでの購入:ご入居者 4 名
■リビング以外の場所で外を見たり、日向ぼっこをして過ごすことでゆったりできる	➢天気の良い日にテラスに出て、気持ちよく過ごしていただきました(ご入居者約 4 名)
■鏡で自身の姿をみる習慣を継続できるように環境を改善する	➢日課として洗面所において行いました
■家族に安心してもらえる	➢月に1回程度、電話にて連絡・報告を行うとともに NEWSLETTERや行事の開催案内、ホームページ等により近況のご案内をしました ➢もう少し細やかに連絡をしていきたいと思います
【その他の取り組み】	
■水分ケア、排せつケア、看取りケア ■スキルアップ(勉強会の開催) ■地域の方の思うあたりまえにスタッフが気付いて行動する。	➢各種研修会の受講、勉強会の開催、施設長・リーダーによる指導・育成等を行いました
■スタッフのモチベーション向上(成功事例や失敗事例の共有/少人数外出の実施) ■スタッフ間のコミュニケーション(食事会の開催) ■スタッフが働きやすい環境づくり(勤務表や勤務時間の工夫)	➢スタッフ間のコミュニケーション(食事会の開催) ➢5/19: 日新人歓迎 BBQ 開催 ➢7/25: 竹取り開催後の食事会 ➢8/5: 流しそうめん開催

(4) すみれユニット

計画内容	評 価
■ご入居者の変化に応じた 24 時間 ソートの見直し	➤ユニット会議時に実施しました(計 12 回)
■24 時間ソートの一覧表の作成、変更 に応じた修正	
■生活相談員やボランティアの方との調 整を行い、内容を決定する	➤傾聴ボランティア、介護相談員を受 入れました(年 12 回)
【その他の取り組み】	
■移乗介助(i-PAL(今仙技術研究所 製))	➤トイレ介助に使用しました
■介助リフト／入居者の安心・安全、ス タッフの身体負担軽減	➤スタッフの腰への負担軽減につな がりました
■うながし排尿、トイレでの排せつ ■ビデオス(根拠)に基づいたケアの実 施	➤ご入居者の状態に合わせて対 応できるように、勉強会を定期 的に実施しました
■ホームページ「グリーンホームだより」への 記事の掲載	➤4/6:「すみれユニット ユニット運営 計画書です。」 ➤7/20:「新しい趣味を始めまし た。」 ➤9/4:「～いきいき介護フェスタに行 ってきました～」 ➤9/15:「祝！白寿！」 ➤9/18:「京都の和菓子を…敬老 の日」 ➤9/22:「褥瘡予防・ポジショニング勉 強会を行いました」 ➤11/4:「☆Happy Birthday☆」 ➤11/11:「産休に入ります(^)/」 ➤12/10:「～お好み焼・たこ焼きを 楽しみました～」 ➤12/25:「すずらん・すみれユニット のクリスマス会」 ➤12/30:「リフトの使い方研修を行 いました。」 ➤1/1:「元日のお昼(*^▽^*)」 ➤2/3:「節分の豆まき」 ➤2/23:「今日の昼食」 ➤3/3:「ひな祭り(*^▽^*)」

(5) さくらエト

計画内容	評 価
■法人理念を意識して仕事をする	➢ユニット会議時に実施しました(計12回)
■入居者の暮らしぶりを把握し、その人らしい生活を送っていただく	➢身体機能の変化などに応じ、その都度ケアの内容等について見直しを実施しました ➢24時間シートを3か月ごとに見直しました ➢部屋の設えについて、実施しました
■自分の部屋となる	➢ご自宅からなじみのものの持ち込みを進めました
■楽しみを持てる場を作る	➢買い物ツアーを実施しました
【その他の取り組み】	
■マッスルーツ®(イノフィ社製)を活用し、職員の身体負担の軽減に取り組む	➢マッスルーツ®、介助リフトを使用しスタッフの腰への負担軽減につながりました
■介助リフトを使用して、ご入居者に安心・安全な移乗を提供すると共に、職員の身体的負担を軽減させる	➢ご入居者の状態に合わせて対応できるように、ユニット会議で勉強会を定期的に行いました

【医務係】「生きる張り合いを感じていただけるよう支援します」

➢未来型のKAIGOにチャレンジ！

計画内容		評 価
■地域ニーズ、要望をキャッチし、先がけて行動できるように情報収集をする	○	➢ホーム内での看取り 特養:15名、ショートステイ5名
■注目の皆が願う健康寿命に向けて、食事、運動、睡眠など良いとされていることを取り入れる!	○	➢11/29:職能部会研修会・意見交換会1名参加 ➢7/10:普通救命講習Ⅰ(18名参加) ➢2/28:「古くて新しい皮下注射」4名参加
■生きがいという大切なものに対して、役立ち感や外に出る機会を創出する	△	➢ケアプラン作成:「花の水やり」、「パブリックスペースの活用」、「買い物」、「ボランティア・職場体験

			等の方々との交流」等、参加領域の位置付け
■今ある ICT、介護機器、タブレットを使いこなし、比較評価する	○	➢モバイルくんを使用し、全スタッフが常時使用でき、過去・現在の健康状態を知り反映させることができた ➢受診や緊急的な受診の際にプリントアウトし活用できた	
■認知症ケア、医療的ケア、看取りケアなどについて、さらに学び、実践していく	○	➢2/1: 看取り事例発表会に参加 ➢ご家族・医師・介護スタッフとの連携を図ることができた ➢【再掲】7/10: 普通救命講習 I (18 名参加)	
■パブリックスペースの有効活用、社会活動、参加に向けた取り組みをしていく	○	➢ケアマネジャーとも連携しながら生きがいにつながる活動に向けた計画書を作成。パブリックスペースで過ごしていただく時間を大切にしました	
■根拠を考え、学び、数値評価を行う	○	➢パーセルインデックスによる評価 (入居者 48 名)	
➤地域共生社会の実現にチャレンジ！			
計画内容		評 価	
■人が育ち、おのずとホームが繁栄し、機能するよう行動する	○	➢新たな人材が入り、機能充実に向けて小会議を5日に1回程度開催 ➢3 月毎に係内において情報交換を行い、各署との連携を図った	
■入所施設ではなく住まい（入居施設）としての支援を続ける	○	➢医療機関との連携 ・嘱託医(平均 5 回/週) ・近隣医療機関(受診 32 回/年) ・保健所との連携(電話・相談 28 回)	
➤KAIGO スタッフの“魅力”“楽しさ”“深さ”の発信にチャレンジ！			
計画内容		評 価	
■地域を支える専門職とし	○	➢【再掲】11/29: 職能部会研修	

て、日々実践を重ねる		会・意見交換会 1 名参加
■ホームページを活用した情報発信	○	> 普通救命講習の模様をホームページに掲載 > ワークキャンプにおいて、看護の仕事の内容・魅力等を伝えることができた。
■いろいろな方のサポートが受けられるよう仕事のマッチングを行う	○	> 看護職員 1 名増員 > 高年齢職員 1 名
■ワークライフバランスを考えた働き方の改善	○	> 希望休をなるべく取り入れることができた(冠婚葬祭・学校行事・余暇時間等) > 有給休暇取得率 100%

【栄養管理・調理部門】「食」を通じて、権利を追求する
 > 未来型の KAIGO にチャレンジ！

計画内容	評価	
■ミールラウンド、アセスメントの実施	○	> 約 2 日に 1 回の頻度で各ユニットラウンド実施 > 3 月に 1 回の頻度でアセスメント実施(高リスクの方は 1 月に 1 回)
■栄養マネジメントによる栄養改善(低栄養・床ずれ)	○	> 3 月のサイクルで栄養マネジメント実施(高リスクの方は 1 月)
■生活習慣病に対応した療養食の提供、栄養指導	○	> 糖尿病:3,285 食/年
■提案型、改善型組織の構築・蓄積されたデータの活用	○	> モバイルくんからデータを抽出することで、ご入居者の摂取状況を把握することができた
■経営資源、ネットワーク等を活用した生産性向上、業務効率化		

> 地域共生社会の実現にチャレンジ！

計画内容	評価	
■管理栄養士の知識と技術の地域還元 ■地域住民に対する栄養相談	○	> 5/21: ワークキャンプの際に栄養士の仕事について説明をしました > 11/18: 石薬師ふれ愛フェスティバルにおいて栄養相談協力(管理栄養士 2 名)

第二種社会福祉事業

名 称	特別養護老人ホーム 鈴鹿グリーンホーム 短期入所生活介護事業所 ／介護予防短期入所生活介護事業所 (三重県指定 2470300274 号)																
所在地	鈴鹿市深溝町字北林 2956 番地・2958 番地																
定 員	39 床(4 ユニット)																
平成 30 年度 事業計画目標	「その先の・・・まだ見ぬ道へ」～”できない”と思うと、” できる” が逃げる～																
➤KAIGO スタッフの“魅力”“楽しさ”“深さ”の発信にチャレンジ！																	
<table><tr><th>計画内容</th><th colspan="2">評 価</th></tr><tr><td>■栄養マネジメントによる栄養状態 の維持、改善</td><td>○</td><td>➤3 月のサイクルで栄養ケアアセス メント実施(高リスクの方は 1 月)</td></tr><tr><td>■楽しく、おいしい食事の提供</td><td>○</td><td>➤行事食の提供 ・特養:12 回/年 ・デイサービス:53 回/年(おやつ 作りを含む)</td></tr><tr><td>■管理栄養士、調理師の知識と 技術の還元</td><td>○</td><td>➤6/25:管理栄養士・栄養士研 修会「QOL を高める職支援 の実践～職のスペシャリストとし てチームケアを支えるために」1 名参加</td></tr><tr><td>■ホームページ、献立表等による 「食」の中身の見える化</td><td>○</td><td>➤毎月、献立や行事等をホーム ページ掲載、献立表配布を行 いました</td></tr></table>			計画内容	評 価		■栄養マネジメントによる栄養状態 の維持、改善	○	➤3 月のサイクルで栄養ケアアセス メント実施(高リスクの方は 1 月)	■楽しく、おいしい食事の提供	○	➤行事食の提供 ・特養:12 回/年 ・デイサービス:53 回/年(おやつ 作りを含む)	■管理栄養士、調理師の知識と 技術の還元	○	➤6/25:管理栄養士・栄養士研 修会「QOL を高める職支援 の実践～職のスペシャリストとし てチームケアを支えるために」1 名参加	■ホームページ、献立表等による 「食」の中身の見える化	○	➤毎月、献立や行事等をホーム ページ掲載、献立表配布を行 いました
計画内容	評 価																
■栄養マネジメントによる栄養状態 の維持、改善	○	➤3 月のサイクルで栄養ケアアセス メント実施(高リスクの方は 1 月)															
■楽しく、おいしい食事の提供	○	➤行事食の提供 ・特養:12 回/年 ・デイサービス:53 回/年(おやつ 作りを含む)															
■管理栄養士、調理師の知識と 技術の還元	○	➤6/25:管理栄養士・栄養士研 修会「QOL を高める職支援 の実践～職のスペシャリストとし てチームケアを支えるために」1 名参加															
■ホームページ、献立表等による 「食」の中身の見える化	○	➤毎月、献立や行事等をホーム ページ掲載、献立表配布を行 いました															

事業報告	「当たり前のことを当たり前、丁寧に行ってまいりました。」	
	➤未来型の KAIGO にチャレンジ！	
	計画内容	評 価
	■顧客の利益を第一に考える	○ ➤ユニット会議 36 回開催(ミニ会議を含む) ➤業務改善会議 12 回開催 ➤スタッフに対して、「利用者」→「顧客」との考え方の転換について都度細かく伝えることで達成できた
	■地域のみなさまの期待を超える KAIGO サービスを提供するための挑戦	○ ～ △ ➤ユニット会議 36 回開催(ミニ会議を含む) ➤業務改善会議 12 回開催 ➤ショートステイの増床(9 床)を行いました ➤「当たり前のことを、当たり前」について、顧客等から一定の評価が得られました ➤退院直後に自宅に帰るまでの支援を行い、「良くなって自宅に戻る」ための礎的な活動ができた ➤情報連携や連絡、伝達を早く、こまめに行わなければならない場面が多くあるために、ミスも目立つところでもあり、今後の課題も見えてきました

■KAIGO、福祉施設の未来型ビジネススタイルをデザインするための挑戦 ■ICT、ロボット、センサー、機器の活用を図るための挑戦	○ ～ △	➤業務改善会議 12 回開催 ➤国際福祉健康産業展、みえ福祉フォーラムに参加 ➤ICT デモ:5/11、9/27、10/4、10/17、10/18、10/22、10/23、10/24、12/18、3/5 ➤システム会議:9/7、11/26、1/15 ➤2/21～22:東海北陸ブロック合同委員会参加 ➤様々なロボット・ICT の活用にチャレンジし、現在も取り組んでいます ➤事業所全体で考えると多くのテクノロジーを導入し、生産年齢人口減少社会の中でサービスの質・量ともに顧客の満足が得られる形を追求することができた ➤テクノロジーの活用についてはまだまだ発展途上のものもあり、今後の検討が必要
■ケアの効果の見える化を図るための挑戦	○	➤ユニット会議 36 回開催(ミニ会議を含む) ➤すべてのお客様に対して細やかに分析→見える化が行えている状況ではないが、一定の見える化はできた ➤ユニット会議において顧客 1 人 1 人の状態について検討を行い、24 時間シートに反映することができた
■ユニットケアの深化+進化	△	➤認知症の方にとっての落ち着く設え・環境を追求していく必要があります

➤地域共生社会の実現にチャレンジ！

計画内容	評 価	
■共生型サービスへの挑戦	△	>7/23:サクラ園様へ見学 >11/6:放課後デイサービスりんぐりんぐ様へ見学 >12/7:和順学園様へ見学
■顧客の立場に立ち、暮らしの継続のための挑戦	○	>ユニット会議 36 回開催(ミニ会議を含む) >業務改善会議 12 回開催 >他施設の利用が難しくなったお客様(介入困難ケース)の受入を積極的に行った >穏やかな在宅での暮らしを維持してもらう一助となった

>KAIGO スタッフの“魅力”“楽しさ”“深さ”の発信にチャレンジ!

計画内容	評 価	
■法人理念の徹底	○	>ユニット会議 36 回開催(ミニ会議を含む) >ユニット会議において唱和 >毎月開催の月例会での徹底を含めて徹底を行った
■「すべてのサービスは顧客の利益となっているか」意識の徹底	○	>ユニット会議 36 回開催(ミニ会議を含む) >業務改善会議 12 回開催 >スタッフに対してお客様へサービスを提供するという概念を伝え続けることができた
■39 床への新たな挑戦	○	>1/1:9 床増床 1 ヶ月間で軌道に乗せることができた
■人材の育成	○	>ユニット会議 36 回開催(ミニ会議を含む) >業務改善会議 12 回開催 >業務改善会議、ユニット会議、各種研修を通じて育成を行うことができた >理解、納得が伴いにくいスタッフに対しては随時個別ヒア

		リンクを実施
■営業活動の展開	○	>非常に多くの皆様にご利用いただくことができた >短期入所が必要な方が増えてきている(ご利用エリアが広範囲になってきている為)
■実践研究発表	○	>8/1～2: 東海北陸ブロック岐阜大会において取組発表

【各ユニット運営計画】

※詳細については、ホームページ「グリーンホームだより」又は各ユニット玄関に設置している冊子をご覧ください

(1) いちようユニット

計画内容	評価
■老人福祉法第33条、経営理念を理解し、意識することで全スタッフが同じ目的を持ち、より良い暮らしの継続を行うことができる	>毎月ユニット会議で33条、経営理念の唱和を行った >人事考課の面談やユニット会議の場で問題やトラブルについて話し合いを持つことができた
■24時間シートを活用することで、スタッフ全員が統一したケアを行うことができ、日々の暮らし共に変化していくお客様に応じた支援を行うことができる	>毎月モニタリングを実施し、24時間シートを適切に更新することができた >問題やトラブル発生がなかった 今後はICF(活動・参加)を重点に置き、新システム導入に備え、より細かい内容にしていく必要がある
■ナースコールの音を消すことによって、より家庭的な生活に近い空間を生み出し、落ち着いて生活を送ることができる	>ナースコール音がフロア鳴り響かさない(居室前サインのライト及びPHSにてコール対応)ことにより家庭的な生活に近づけることができた >問題や支障も発生がなかった
【その他の取り組み】	
■適切な口腔ケアの実施	>プライバシーや羞恥心に配慮した口腔ケアをスタッフ全員行うことができた >10/18: 口腔ケア研修会の内容について2月ユニット会議において勉強会を実施。 >長期ご利用者を中心に機能訓練を行うことができた

■個人に合わせたレクリエーションの実施	➢レクリエーションは不十分であったと感じる
■トイレでの排せつを推進する	➢お客様に応じて「リハビリパンツ」→「布パンツ」の取組も行っている ➢次年度は新たなシステムの導入を行い可能性の幅を広げて行く必要がある
■メンタルロボットの使用による改善効果の検証	➢グリーンホームだよりへの掲載、石薬師ふれ愛フェスティバル、各種セミナーにおいて活用することができた 新たな使用方法を模索中

(2) ひのきユニット

計画内容	評価
■ユニットAについてスタッフの理解の推進に努める	➢ユニット費を活用して設えを工夫したり、24時間シートにより、その方に応じたケアを実施できた。
■経営理念を徹底し、地域に信頼されるべき存在であり続ける	➢毎月のユニット会議に全員で唱和を行うことで、徹底することができた
■24時間シートを活用し、ユニットのスタッフ全員が、ひとりのお客様に対して同じサービスが提供できる	➢スタッフ全員が24時間シートを共有、活用して同じサービスを提供できた。
■お客さまひとりひとりが、それぞれの暮らしを実現できる環境を整える	➢24Hシートを活用してお客様に応じた環境を整えることができた
■ユニットで炊飯するだけでなく、パンの日はパンを作ってみたりと、お客様に楽しみや張りのある生活を過ごせるように努める	➢『ごパン』を活用し楽しみを作ることができた
■ご家族との情報共有を図り、ご利用者とご家族双方が安心できる環境を整える	➢面会や送迎時等に情報共有やコミュニケーションを図り、安心できる環境を整えることができた
【その他の取り組み】	
■障がいのあるお客様に対しても知識を深め、適	➢障がいについての勉強会が行うことができなかった

切なサービスが提供できるように取り組む	
---------------------	--

(3) かえでユニット

計画内容	評価
■ユニットケアについて理解を深める	➢毎月のユニット会議で第33条の唱和を行った
■経営理念に沿った行動ができる	➢毎月のユニット会議で経営理念の唱和を行った ➢各スタッフが理念に沿った行動ができているか確認を行った
■24時間シートを活用することで、ご利用者が今までの暮らしを継続できる	➢デイサービスや機能訓練指導員との連携は一部の方しかできなかった ➢各職種との連携を図り24時間シートに反映して行く必要がある
■サブリビングに季節の飾り付けをし、くつろぎの場を提供する	➢次年度より居室として整備し運用していく
■自分の部屋の入口が一目でわかるよう設える。	➢入口に額を設置しご利用者の作品を飾った ➢ご利用者からの評価も高かった
【その他の取り組み】	
■眠りSCAN(パナソニック社製/センサー型ベッド)を活用し、ご利用者に合った見守りを行う	➢お客様、スタッフ共に負担感を軽減することができた ➢機器の性能上タイムラグが生じるため迅速に対応すべきお客様にはセンサーマットの併用を行った ➢見守りツール以外の活用方法も検討していく必要がある
■スタッフの介護技術を向上させることで、ご利用者に応じた支援を行う	➢技術チェックリストを作成し、向上を図る必要がある部分の指導を行った

(4) けやきユニット

計画内容	評価
■老人福祉法第33条、経営理念を理解することで、スタッフが同じ思いでケアを提供する	➢老人福祉法第33条、経営理念は把握できているが、ケアへの繁栄はまだまだ努力が必要

	■ご入居者の暮らしぶりを把握し、その人らしい生活を送っていただく	➢お客様の日々の様子やご家族様の声をケアに活かしスタッフ全員が統一された支援を行えるように24時間シートを活用していく
	■いつでも好きなところに行ける空間を作り、快適な環境で気持ち良く過ごしていただきたい	➢畳スペースやソファ等過ごしやすい環境をさらに整備していく
	■生活の中に日々の楽しみを見出す	➢日々、新聞を読む、気の合う方とテレビを見て談笑する等、何気ない事だが楽しみを感じていただくことができた
	■ユニット会議の中でケアや仕事内容を統一させる	➢ルールをさらに明確にしていく必要がある ➢ユニット会議を有効に活用しケアの内容や業務について話し合いを持つ時間をつくる ➢職員間のコミュニケーションを高めていく必要がある
	■必要な情報の共有を徹底する	➢スムーズに情報共有が行えなかった場面が見られた ➢インカム等のツールの利活用を検討する必要がある
	【その他の取り組み】	
	■介助リフトの使用による移乗介助	➢対象者等の関係もあり、あまり活用できなかった ➢介助リフトのみではなく、ご利用者の心身の状態にあった他の機器の使用も検討していきたい
	■5S活動の徹底による快適な環境づくり	➢時間を作り少しずつ行うことができた➢安全で快適かつ効率的な環境を作っていくたい



第二種社会福祉事業

名 称	デイサービスセンター 鈴鹿グリーンホーム 通所介護事業・第1号通所事業 (三重県指定第2470300332号) (鈴鹿亀山地区広域連合指定第24A0300822号)																			
所在地	鈴鹿市深溝町字北林 2956 番地																			
定 員	70 名（平成 19 年 11 月新築移転／平成 30 年 1 月 1 日増築）																			
平成 30 年度 事業計画目標	「変化への対応」～効果のあるサービス提供を目指して～																			
事業報告	➤<u>未来型の KAIGO にチャレンジ！</u> 「介護予防、機能訓練を推進するためのチャレンジ」 ◇生きがいと社会活動、参加を推進するためのチャレンジ ◇健康寿命の延伸を目指し、健康を支え守るためのチャレンジ ★サービス内容の検討 ① 介護予防、機能訓練について、個別メニューの立案 <table><tr><th>計画内容</th><th colspan="2">評 価</th></tr><tr><td>■トレーニング マシン HUR、レッドコード、 個別メニューの提供</td><td>○</td><td>➤計 378 名の方にトレーニングメ ニューを提供しました</td></tr></table> ② 実施したサービス内容のデータ収集と蓄積 <table><tr><th>計画内容</th><th colspan="2">評 価</th></tr><tr><td>■トレーニング マシン(HUR スマートタッチ)、 体力測定の実施</td><td>○</td><td>➤体力測定を行うことで維持、 改善、悪化が数値化され た。ご利用者に対しても良 くなった点、維持できた点 について機能訓練指導員 から説明を行いました ➤ご利用者からは、書面で自 分の状態が見られるので よいとの声を頂くことがで きました ➤ご利用者、担当のケアマネジ ャーやご家族から機能訓練メ ニューについて問い合わせ や相談があり、都度対応い たしました</td></tr></table> ③ 効果のあるメニューを提供することで結果を出す <table><tr><th>計画内容</th><th colspan="2">評 価</th></tr><tr><td>■ADL（日常生活動作）の評価</td><td>○</td><td>➤4 月、9 月に機能的評価</td></tr></table>			計画内容	評 価		■トレーニング マシン HUR、レッドコード、 個別メニューの提供	○	➤計 378 名の方にトレーニングメ ニューを提供しました	計画内容	評 価		■トレーニング マシン(HUR スマートタッチ)、 体力測定の実施	○	➤体力測定を行うことで維持、 改善、悪化が数値化され た。ご利用者に対しても良 くなった点、維持できた点 について機能訓練指導員 から説明を行いました ➤ご利用者からは、書面で自 分の状態が見られるので よいとの声を頂くことがで きました ➤ご利用者、担当のケアマネジ ャーやご家族から機能訓練メ ニューについて問い合わせ や相談があり、都度対応い たしました	計画内容	評 価		■ADL（日常生活動作）の評価	○
計画内容	評 価																			
■トレーニング マシン HUR、レッドコード、 個別メニューの提供	○	➤計 378 名の方にトレーニングメ ニューを提供しました																		
計画内容	評 価																			
■トレーニング マシン(HUR スマートタッチ)、 体力測定の実施	○	➤体力測定を行うことで維持、 改善、悪化が数値化され た。ご利用者に対しても良 くなった点、維持できた点 について機能訓練指導員 から説明を行いました ➤ご利用者からは、書面で自 分の状態が見られるので よいとの声を頂くことがで きました ➤ご利用者、担当のケアマネジ ャーやご家族から機能訓練メ ニューについて問い合わせ や相談があり、都度対応い たしました																		
計画内容	評 価																			
■ADL（日常生活動作）の評価	○	➤4 月、9 月に機能的評価																		

【(機能的評価)Barthel Index の導入】		(Barthel Index)による評価 を実施いたしました
■個別機能訓練加算Ⅱの算定	○	➤算定いたしました

④ 「職員」と「質」の確保

計画内容	評 価	
■人材確保と育成を図る ■主任の年間計画 ・認知症ケア、医療ニーズの充実を図るための取り組み ・ビデオ（根拠）に基づいたケアを行うための取り組み ・ケアの効果の見える化に向けた取り組み ・不可能を可能にする課題解決力のあるスタッフの育成	×	➤人材確保状況等により、スタッフの教育が思うように進まない状況がありました 指導的スタッフ配置に課題があり、採用したスタッフ教育についても計画通りに進めることができませんでした

⑤ 機能訓練機器の活用

計画内容	評 価	
■介護予防普及啓発事業、一般開放等、地域に向け事業所の機能を活用する方法について、地域コンシェルジュとの連携のもと、進めていきます。	○	➤地域コンシェルジュが不在の中でしたが、概ね本年度の予定を実施することができました

⑥ 経営の効率化

計画内容	評 価	
■事業所単位、複数事業所への移行の検討	×	➤人材確保状況により検討していません

➤地域共生社会の実現にチャレンジ！

「共生型通所介護への対応」

計画内容	評 価	
■ニーズへの対応 ■他の社会資源との積極的な連携	△	➤7/23に生活介護事業所サクラ園様を見学、11/6に放課後等デイサービスりんぐりんぐ鈴鹿様を見学し、学びを深めましたが、当事業所のスペース等の関係により、継続して検討が必要といたしました
■日中一時支援事業の継続	○	➤登録者数:4名

➤KAIGO スタッフの“魅力”“楽しさ”“深さ”の発信にチャレンジ！

「制度改正への対応」「品質管理」

計画内容	評 価	
■ 研修会の参加と情報収集 ■ 会議による情報共有と対応の検討 ■ アトム評価に向けた準備 ■ 現状の業務内容の見直し	△	>情報収集と会議での情報共有を図ってきましたが、人手のみに頼る業務の在り方から、テクノロジー等を活用した業務に変えていく必要があり、全事業所連携のシステムの導入等に向けたスタッフの理解・意識改革が必要です
■ 業務効率化による品質向上 ■ 現機能を活用したサービスの検討、実施、評価	△	>定員増に伴い、配車表を変更しました >入浴時の衣類交換チェック表を作成しました >担当者会議録、アセスメントシートを簡素化しました >総合事業の計画書を簡素化しました >サービスステーションにキャビネットを2台購入し、整理を行いました >個人ファイルの綴り方を変更し、見やすくしました >現機能の改善では限界があるため、テクノロジー等の活用によって、業務効率化を図るとともに、ピラミッド方からサッカー型の組織に転換していく必要があります

「みえ福祉第三者評価からの気づき」

計画内容	評 価	
■ 改善計画の実行、評価、業務への反映	○	>自己評価リーダーを中心として改善に取り組みました
■ 利用者、職員アンケートの実施	○	>利用者アンケートを実施し、当該結果についてホームページ等において公表いたしました



第二種社会福祉事業

名 称	在宅介護支援センター 鈴鹿グリーンホーム											
所在地	鈴鹿市深溝町字北林 2956 番地											
平成 30 年度 事業計画目標	地域支援事業における介護予防普及啓発事業の実施 高齢者見守り体制整備業務の実施											
事業報告	1.鈴鹿市介護予防普及啓発事業及び高齢者見守り体制整備事業業務委託 (1)鈴鹿市介護予防普及啓発事業受託 ➤〇介護予防普及啓発事業にて、運動クラブ NEXT を 6 月に試験的に実施し 10 月より毎週実施といたしました グリーンの音楽会と選択制としたことで、より幅の広い介護予防への取り組みを進めました ②に関しては昨年度と同様に、各団体からの求めに応じ、下大久保町や西庄内町・山辺町などの地域にて出張音楽会を行いました ③に関しては 1/20 に餅つき行事を行いました 実施内容： <table border="1"> <thead> <tr> <th>計画内容</th><th>評 価</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①グリーンの音楽会（毎週火曜日）</td><td rowspan="2">➤計 51 回開催、延べ 998 名参加</td></tr> <tr> <td>② 出張音楽会の地域展開（関係機関の求めに応じ開催、各地域包括支援センターとの連携・合同実施の検討）</td></tr> <tr> <td>③ 生きがい活動など（月 1 回程度）</td><td>➤運動クラブ NEXT：計 24 回開催、延べ 373 名参加</td></tr> </tbody> </table> (2)鈴鹿市高齢者見守り体制整備事業業務受託 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評 価</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>〇</td><td> ➤本年度より「高齢者通報体制整備事業」から「高齢者見守り体制整備事業」へと名称が変更となりました 対象となりうる利用者への対応は行いましたが、委託元となる行政および地域包括支援センターから対象となるとの判断がなく、結果的に年間実績は 0 件でした ➤制度的な課題もあるかと感じておりますが、引き続き法人として必要に応じ連携が図れるよう、平成 31 年度以降も契約を継続といたします </td></tr> </tbody> </table> 2.車いす等の無料貸し出し事業の継続 法人独自の取り組みとして、通院や買い物・旅行などの必要に応じ、法人が所有する車椅子及びその他の福祉用具の無料貸出を行いました	計画内容	評 価	①グリーンの音楽会（毎週火曜日）	➤計 51 回開催、延べ 998 名参加	② 出張音楽会の地域展開（関係機関の求めに応じ開催、各地域包括支援センターとの連携・合同実施の検討）	③ 生きがい活動など（月 1 回程度）	➤運動クラブ NEXT：計 24 回開催、延べ 373 名参加	評 価		〇	➤本年度より「高齢者通報体制整備事業」から「高齢者見守り体制整備事業」へと名称が変更となりました 対象となりうる利用者への対応は行いましたが、委託元となる行政および地域包括支援センターから対象となるとの判断がなく、結果的に年間実績は 0 件でした ➤制度的な課題もあるかと感じておりますが、引き続き法人として必要に応じ連携が図れるよう、平成 31 年度以降も契約を継続といたします
計画内容	評 価											
①グリーンの音楽会（毎週火曜日）	➤計 51 回開催、延べ 998 名参加											
② 出張音楽会の地域展開（関係機関の求めに応じ開催、各地域包括支援センターとの連携・合同実施の検討）												
③ 生きがい活動など（月 1 回程度）	➤運動クラブ NEXT：計 24 回開催、延べ 373 名参加											
評 価												
〇	➤本年度より「高齢者通報体制整備事業」から「高齢者見守り体制整備事業」へと名称が変更となりました 対象となりうる利用者への対応は行いましたが、委託元となる行政および地域包括支援センターから対象となるとの判断がなく、結果的に年間実績は 0 件でした ➤制度的な課題もあるかと感じておりますが、引き続き法人として必要に応じ連携が図れるよう、平成 31 年度以降も契約を継続といたします											

	た	
	評 価	
	○	>計 36 名の方に対して、 車いす 375 日間(前年度比+105 日) シャワーチェア 22 日間(前年度比▲71 日) ポータブルトイレ 174 日間(前年度比▲ 5 日) 歩行器 19 日間(前年度比+19 日) の貸し出しを行いました
	3.地域コンシェルジュの活動展開	
	評 価	
	△	>地域コンシェルジュの退職により活動展開はできませんでしたが、当居宅介護支援事業所のケアマネジャーと連携し、地域へのアプローチは継続いたしました



公 益 事 業

名 称	在宅介護支援センター 鈴鹿グリーンホーム 居宅介護支援事業所 (三重県指定第 2470300258 号)		
所在地	鈴鹿市深溝町字北林 2956 番地		
平成 30 年度 事業計画目標	引き続き地域への対応力・浸透力の向上を図る ～ 居宅介護支援の New Standards への挑戦！～		
事業報告	1.特定事業所としての安心感からスタッフ全員で地域を支える		
	計画内容	評 価	
	(1)利用者へのこまめなモニタリング活動と介護サービス事業所との連携継続 (2)利用者に対する公平公正な地域の社会資源や介護サービス事業所の情報提供	○ ➢毎月担当ケアマネジャーによる居宅モニタリング訪問の実施、利用事業所へ提供票持参等の各サービス事業所の訪問を適宜実施しました ➢社会資源ファイルの拡充に努め、書面を活用した利用者に適した公平公正な介護サービス事業所の情報提供につなげました ➢12 月：ケアマネジャーが1名病気療養となりましたが、他のケアマネジャーや特養兼務のケアマネジャーの協力を得ながら概ね問題なく対応いたしました 以後一時的に新規対応が困難な状況が続いておりましたが、3月にケアマネジャーを1名増員できたことや、病気療養中の職員が徐々に復帰しつつあることで、状況は改善方向に向かっております	
	(3)ケアマネジャー相互又は地域コンシェルジュとの連携による地域に対する相談支援及び緊急対応体制の強化	△ ➢地域コンシェルジュの退職に伴い、当初予定していた体制とはなりませんでしたが3月に介護支援専門員を1名増員できたこともあり、概ね業務上問題なく対応でき、徐々に体制の強化に向け取り組めております	
	(4)モバイル端末の導入及びツールを使用した業務効率化・関係機関との連携強化	○ ➢7 月：事業所の全パソコン端末に音声入力ソフト「VoiceFun」を導入し、記録業務の効率化につなげております ➢モバイル端末については年度内に見積りを取り、かかる費用の概算を確認済み	

			本年度ケアマネジャーが1名増員となったことに伴い、その方の習熟度合いを確認しつつ、携帯電話増台にあわせ全ケアマネジャーの携帯端末をスマートフォンに変更予定としております ➤それを前提として、鈴鹿市医師会が導入予定としている在宅患者情報共有システム「バイタルリンク」の説明会にも参加いたしました
(5) 定期運営会議・居宅内研修の継続、各種外部研修会への参加	○		「法人 5.-(1)」をご参照ください (特に医療面を中心とする、今年度は必ず障害施策や地域共生サービスについて盛り込む)、地域ケア会議やケアプラン点検・各種ケース検討会への事例提供など協力推進
(6) 困難ケースへの対応と、地域とのつながりを意識した連携推進・強化	○		➤適宜、鈴鹿西部包括支援センターをはじめ、鈴鹿市長寿社会課や鈴鹿亀山地区広域連合の求めに応じ、困難なケース等への関与・対応を行いました 加えて障害施設からの求めにも応じ、障害・介護双方のサービスを活用するケースの担当も障害施策支援相談員と連携し対応いたしました ➤平成30年4月の法改正より居宅介護支援にターミナルケア加算が新設されたこともあり、年度内に3件算定対応いたしました ➤他の居宅介護支援事業所の閉鎖や担当ケアマネジャーの退職、異動に伴うケース移行相談にも可能な限り対応いたしました
(7) 研修内での各担当ケースの開示および定期的な相互担当ケースへの同行訪問・困難ケースへの複数ケアマネジャーの関与	○		➤年度内にて延べ27件以上の同行訪問を実施いたしました ➤それ以外にも必要に応じ各担当が抱える課題に他のケアマネジャーが相談に応じ、適宜関与を図っております
(8) 介護支援専門員実務者研修実習生の受入れ	○		➤本年度は2月に1名(延べ3日間)の実習を受入れました

(9) 人事考課による自己覚知と資質の向上 (10) 和顔愛語の実践	○	➤法人の人事考課制度を活用し、各自の年間目標の設定や振り返りによる自己覚知と資質の向上につなげました また適宜職員間の交流を図り、ストレスを抱え込み過ぎず、常に相互で相談し合い、指摘し合える関係の維持・向上に努めました
---------------------------------------	---	--

2.介護保険制度に対応する～変化する制度への順応と説明責任(アカウンタビリティ)の実践～

計画内容	評 価	
(1)平成30年度介護保険法改正に伴う変更点の周知徹底と利用者・家族への説明	○	➤各種研修への適宜参加や、関係団体からのより速やかな情報取得により、遅滞無く最新情報を把握し理解したうえで、利用者・家族への説明に努めました その結果問題なく制度の変化に対応できました
(2)昨年度より開始となった鈴鹿市の日常生活支援総合事業（地域包括ケアシステム）構築に伴う変更点の周知徹底と利用者・家族への説明	○	➤鈴鹿市西部地域包括支援センターや鈴鹿亀山地区広域連合と連携を図り、総合事業に対する理解を深めるとともに必要に応じ利用者・家族への説明に努めました

3.地域貢献活動の推進～社会福祉法人として地域に安心感をお届けする活動の実践～

計画内容	評 価	
(1)介護予防普及啓発事業と連動したハイリスク高齢者へのアプローチ	○	➤詳細につきましては、事業報告（在宅介護支援センター）を参照してください
(2)鈴鹿市健康福祉部長寿社会課・鈴鹿亀山地区広域連合・鈴鹿市西部地域包括支援センター・地域の民生児童委員・他事業所との連携	○	➤1-⑥に挙げた困難事例での連携に加え、民生児童委員協議会や地域ケア会議への出席など、各関係機関の求めに応じ適宜連携を図りました ※会議の出席状況等、詳細は「法人 5.-(1)」ご参照ください ➤昨年に引き続き本年度も鈴鹿市西部地域包括支援センターを通じ石薬師明るい街づくり協議会からの求めに応じ石薬師ふれあ

			いフェスティバルへ参加いたしました
(3) 地域の中の各種社会資源の情報収集および連携強化	○	➢新規開設事業所への内覧会や他施設の見学による情報収集や、シルバーフォーラムへの参加、必要に応じたパンフレット等の取り寄せにより、社会資源ファイルの拡充と利用者への適切な情報提供を行いました また必要に応じ連携を図り、利用に向けた支援を行いました	
(4) 医療機関との連携 (5) 地域内の他居宅介護支援事業所との連携	○	➢入退院時をはじめ、適宜医療機関と連携を図りました 具体的な実績として平成 30 年度の年間で入院時連携加算を 44 回、退院退所加算を 36 回算定しております ➢鈴鹿市医師会の介護・医療連携支援センターすずらんと連携を密にすることや、在宅登録医会へのゲスト参加(6/11)、多職種親睦会(7/ 4 日)への参加などを行いました ➢鈴鹿市西部地域包括支援センター合同事例研究会や地域ケア会議等への参加により、圏域の他の居宅介護支援事業所との連携も深めました	
(6) 車椅子等の無料貸し出し事業の継続	○	➢法人内に有する福祉用具等の資産を活用し、利用者への緊急的な貸出等、柔軟な対応につなげることができました ※実績等は事業報告(在宅介護支援センター)をご参照ください	
(7) 徘徊高齢者等の安心ネットワーク活動(鈴鹿市社会福祉協議会)への協力	○	➢法人として徘徊高齢者等の安心ネットワークに登録し、適宜届く搜索依頼情報を事業所内で共有することで、訪問など地域を移動する際に意識して不明者がいないかの搜索活動に協力いたしました ➢担当する利用者で徘徊リスクの高い方に対しては、適宜制度について情報提供を行いました	
(8) 認知症啓発活動への取り組み	○	➢当居宅介護支援事業所のケアマネジャー 2 名が取得している認知症キャラバン・メイトの知識を活用し、鈴鹿市西部地域包括支援センターの依頼により、鈴峰地区市	

		民センターにて地域住民向けの認知症サポーター養成講座に協力参加いたしました(11/15) ➤認知症キャラバン・メイト連絡協議会へ参加し、スキルの維持と情報交換に努めました(4/22)
--	--	---

4.ホームページによる情報発信～地域のみなさまに情報をお届け～

計画内容	評価
(1)利用者に有用・必要な情報の発信	○ ➤食中毒・熱中症・インフルエンザ・ノロウイルス等季節に応じた各種注意喚起をホームページ上にアップするとともに、居宅訪問時にパンフレットを配布いたしました ➤その他、地域のみなさまに有用と思われるような情報発信にも努めました